



「対話」と「市民参加」による まちづくり

市民の1人1人が「しあわせを実感できる」まちづくりを進めるには、市内で暮らす人々と、思いや目標を共有することが大切です。

各務原市では、多様な市民との「対話」をキーワードに、市民の豊かな知識やアイデア、そして活力をまちづくりに活かすため、市民の皆さんとの「対話」を積み重ねる事業を行っています。

関連するSDGsのゴール



(注) 新型コロナウイルス感染症の影響などにより、中止となった事業もあります

地域と行政を「つなげる」

地域と市役所とのパイプ役として配置されているのが、「エリア担当職員」です。市民の皆さんの身近な存在として、市内4つの地域に1人ずつ常駐し、地域のさまざまな問題や課題、市政への提案など、市民の相談に対応しています。また、自治会などに、行政情報を提供し、アドバイスをしています。



直接、市民の思いを市長に届けるための事業として、平成26年度にスタートした「あさけんポスト」。行政についての提案やアイデアを市民から広く募集し、市政に反映していくための事業です。

ポストは市内の公共施設約30カ所に設置。集まった意見はすべて市長が目を通したうえで、各担当部署で検討し、市の施策や事業に反映するよう努めています。これまでに寄せられた意見は、防災対策から福祉、環境対策、公共施設の利用など幅広く、提案の中には、事業として採用されたアイデアも多くあります。

また、ウェブサイトから利用できるように「あさけんeポスト」も同時に開設しました。これらに寄せられた提案と回答の一部は、市公式ウェブサイトなどで公開しています。

市長への提案箱
～あさけんポスト～

「あさけんeポスト」の詳細は市公式ウェブサイト
(右記二次元バーコード)をご覧ください



市民の「声」と「手」が各務原市をつくる

平成 27 年度からスタートした市の総合計画のテーマは「しあわせ実感」。市民の皆さんの幸せ度をアップするため、「市民を出発点とするまちづくり」を行っています。

市内の団体など、市民の皆さんと市長とが直接語り合う「まちづくりミーティング」もそのひとつ。気軽に意見を出し合える雰囲気の中で開催されています。市民の普段の生活や、団体の活動の中で感じたことを直接話してもらうことで、市民の「幸せ」を増進する事業や施策につなげています。

「まちづくりミーティング」で寄せられた意見や提案は、「あさけんポスト」と同様に、その効果や実現性、費用などを踏まえて検討します。これまでの例として、子育て関係団体とのミーティングをもとに、一般不妊治療や、出産後の1カ月健診などに対する助成をスタートさせるなど、市民の声を活かしたまちづくりを実現しています。



市民のまちづくり活動をサポート

各務原市では、「対話」の充実とともに、市民が自由な発想で積極的にまちづくりに取り組める環境づくりを行っています。

「まちづくり活動助成金」は、市民団体の活動に対する助成制度。団体の設立・自立のための「スタート助成」と、課題解決する団体への成長を目指す「まちづ

くり助成」で構成されています。助成を受ける団体は、事前に審査会での審査を受け、また、年度末には報告会として市民に活動内容の発表を行っています。

さらに、さまざまな団体同士がつながるきっかけをつくるため、令和2年度から新たに「まちづくり担い手マッチング事業」を実施。団体同士が相互に「できること」、「助けてほしいこと」、「やりたいこと」を共有し、一緒にできることを考えることで、活動の幅を広げています。これまでに20件以上のマッチングが実現し、活動分野を超えたさまざまな団体同士がつながり合っています。

今後も各務原市は、市民が市政に興味を持ち、主体的・積極的にまちづくりに関わり幸せを感じられる、「協働のまち」を目指していきます。

